

岡澤憲一郎教授のご退職にあたって

スポーツ健康学部長 野村良和

岡澤憲一郎教授は、2016年3月末をもって定年退職されました。振り返りますと岡澤先生は1990年4月に本学経済学部教授として着任されました。その後2006年の学部新設に伴い人間健康学部に移籍され、更に2010年の学部改組の際にはスポーツ健康学部へと移られました。その間一貫して瀬戸キャンパスにおいて、かつては第一研究館におられましたが、その後移動されて、ご退職までの間は嗣業館4階の研究室に教育・研究等の拠点を置かれてきました。

岡澤先生は1945年6月に神奈川県でお生まれになりました。1970年には中央大学法学部法律学科に入学され、ご卒業後は同大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程に進学され、更に1978年3月に同大学院博士課程を単位取得満期退学されています。その後1982年に鹿児島経済大学(現:鹿児島国際大学)社会学部に助教授として赴任され、1989年には教授に昇任されました。その翌年の1990年に本学にお見えになりましたが、経済学部在籍中は、大学評議員及び学部の教務委員、入試部委員等の各種委員を担当され、1996年から2000年までの間は産業科学研究所(現:総合研究所)長を歴任されています。また人間健康学部に移られた後も、本学評議員更には理事といった要職を務められました。

岡澤先生の研究領域は、ご著書である『新版ゲオルグ・ジンメル思索—社会学と哲学—』の奥付によれば、「理論社会学」及び「社会学史」とのことです。法学部で学びながらこの領域に入られたことについて、「わたしは、法律学を学んでいるときにウェーバーと出会い、かれの宗教社会学にかんする研究へと進んだ」と説明されています。更に大学院時代の恩師・阿閉吉男先生に「講義ではウェーバーの社会学を、路地裏の居酒屋ではジンメルの社会学と哲学を教えていただいた」と書かれていますが、それがその後の方向に大きく影響したと思われます。その成果として岡澤先生が執筆された著書並びに学術論文のタイトルには、「マックス・ウェーバー」並びに「ゲオルグ・ジンメル」の名前を数多く目にすることができます。ご自身は謙遜されて「ジンメルの社会学と哲学については、もともと門外漢にすぎない」と書かれていますが、大学院生時代より一貫して追及されてきた姿勢には頭が下がる思いです。

岡澤先生は学生指導に際して、常日頃から「褒めれば伸びる」と言われており、それを感じているのか、多くの学生が親近感を持って先生の周りに集っていました。このご姿勢は学生だけでなく、私を含めて多くの教職員のみならず地域住民をも引きつけていました。

定年退職される折に、ご本人曰く、「両キャンパスの関係もあるので最終講義は遠慮したい」とのことで開催を見送りましたが、無理をしてでも実現できなかったものかと後悔しております。今後は新たな環境の中での、身心の健康の維持、並びに益々のご活躍を祈っております。